「手から伝わるコミュニケーション」

アロマハンドコミュニケーターR協会
代表理事　太田　美季

２０１１年３月11日に発生した東日本大震災後、「作業所のみんなが不安な状態なので、アロマハンドマッサージをしてくれませんか？」民生委員の方から依頼がありました。

２００４年からお顔ほぐしのサロンを開業し、月に２度特別要介護老人ホームでアロマハンドマッサージを提供し、高齢者センターでアロマハンドのボランティア育成・福祉事業所でのアロマ講座などを行う毎日。

知的障害の人たちへのマッサージの経験は乏しかったのですが、手を通じてのコミュニケーションをとることを目的として、行なっているアロマハンドマッサージで、みなさんが少しでもラクになるならと、杉の子作業所を訪問しました。

初めての訪問は、隅に隠れこちらをじっと見ている視線、手を出したもののすぐにひこめ立ち去ってしまう人。「気持ちいいね」「いい香りだね」「気持ちいいよ」そう言いながら手を離さない人。「ねえ、みんなもやりなよ！」と周りにどんどん勧めていく人。

笑顔と緊張が交錯し今までに経験したことのない場所。『不安な気持ちを取り除くことなんてできなかったのでは？』そんな戸惑いがありました。

その日から６年。２０１２年の１月からは杉の子弥生の訪問も続けています。２０１５年10月には杉の子丸山のお祭りにも参加させていただきました。

６年という月日の中、アロマハンドマッサージを通じて利用者さんが教えてくれたこと。「続けること」「信頼関係を築くこと」「やってあげようという気持ちで向き合わないこと」触れることに敏感であったり、感受性も豊かな一人一人に合わせた技術。

信頼関係を築いていくのに私ができることは、毎月会いに来るという約束を守ることでした。その約束をずっと守り続けられるのは、主催しているアロマハンドトリートメント講座の受講生が、ボランティアで参加してくれるおかげ。６年間みんなで続けてきたアロマハンドトリートメントは深い信頼関係となって社会福祉の和を広げていくことにもつながっています。

利用者さんの笑顔から私の目標ができました。

２０１５年「アロマハンドコミュニケーターR協会」を設立し、社会福祉に関わる人たちが幸せホルモンで満たされる、心和む時間を作る。

その目標は、私だけのものではないこと。利用者さんの笑顔がいつも背中を押してくれます。

実習生の紹介

東京学芸大学 教育学部 総合社会システム専攻 ３年　八木　祥平

この度、杉の子城山にて２週間の実習をさせていただきました。障害を持つ方々がどのように活躍されているのか、また職員の方々がその点についてどのように支援しているのかについて、様々学ぶことが出来ました。はじめは自分に何ができるのか、上手に利用者の方々と関わることができるのか、とても不安でした。しかし職員の方々は作業所や利用者の方々のことについて詳しくお話ししてくださり、私がわからないことを質問すると、とても丁寧に答えてくださいました。その中で職員の方々が行っている支援は、常に将来を見据えたものであり、地域の中で「ともに生きる」ための支援であることが実感できました。また職員の方々だけでなく、利用者の方々も明るく見慣れない自分に積極的に関わってくださいました。最終日には「八木さんに明日から会えないのはさみしい。」と声をかけていただき、少しでも心に残ることができたのかもしれないと、大変嬉しく思いました。杉の子城山の温かな雰囲気の中で本当に多くを学ぶことができ、大変幸せでした。利用者の皆様、職員の皆さま、２週間大変お世話になりました。